

教育の国際化

語学指導等を行う外国青年招致事業（JET プログラム）

JET プログラムは、「語学指導等を行う外国青年招致事業」(The Japan Exchange and Teaching Programme) の略称で、外国語教育の充実を図るとともに、地域レベルでの国際交流を推進することを目的として、総務省、外務省、文部科学省及び一般財団法人自治体国際化協会の協力の下に地方公共団体等が外国青年を招致する事業であり、昭和 62 年度の開始以来、令和 5 年度で 37 年目を迎える。

令和 5 年度の JET プログラムでは、本県において 144 名の外国青年が、語学指導助手(ALT : 135 名)、国際交流員(CIR : 9 名)として県内の自治体に任用された。語学指導助手は全員、英語の指導助手として、日本人教員とともに県立中学校・高校(34 名)や市町村教育委員会(小中学校 99 名)、私立学校(2 名)で英語の指導に当たっている。国際交流員は県(3 名)と福島市、郡山市、いわき市、伊達市、本宮市で国際交流事業の企画運営などに携わっている。

JET 参加者は、本県滞在中は、単に語学指導等の本業のみにとどまらず、広く地域社会の国際理解に貢献しており、また、帰国後は母国とわが国との架け橋として活躍している。

JET 招致人数の推移

(令和 6 年 3 月末日現在)

	S62～H23 累計 (小計)	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	累計 (合計)
ALT	2,520	127	130	132	133	133	134	142	142	99	134	139	135	4,100
CIR	87	5	4	4	6	7	7	9	9	7	7	8	9	169
SEA	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
計	2,337	132	134	136	139	140	141	151	151	106	141	147	144	3,999

国別の招致人数(ALT+CIR+SEA)の推移

(令和 6 年 3 月末日現在)

	S62～H23 累計 (小計)	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	累計 (合計)
アメリカ	1,137	53	60	66	64	71	63	65	67	52	66	72	72	1,908
イギリス	430	18	14	16	18	21	22	27	25	12	19	22	25	669
カナダ	423	27	26	25	24	19	21	23	25	19	22	20	17	691
オーストラリア	316	14	13	13	15	13	13	14	15	12	12	11	9	470
ニュージーランド*	192	9	9	6	5	6	9	9	8	4	9	9	7	282
アイルランド*	40	0	0	0	0	1	4	5	4	1	3	3	2	63
中国	18	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	29
フィリピン	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	4	4	3	14
南アフリカ	22	2	3	1	1	1	3	2	2	1	2	3	3	46
ジャマイカ	9	4	5	4	5	3	2	0	0	0	1	1	2	36
トリニダード・トバゴ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
シンガポール	17	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	19
インド	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
バルバドス	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
フィンランド*	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
トンガ	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
ガーナ	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
オランダ	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	1	1	1	15
ドイツ	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9
計	2,337	132	134	136	139	140	141	151	151	106	141	147	144	4,274

(国際課調べ)

教員の研修制度

文部科学省教員海外派遣事業（年度別派遣人数 公立）（単位：人）

	元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14-R5	累計(S34-)
長期(30日)	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	0	0	0	353
短期(16日)	23	23	25	26	27	27	27	27	51	51	51	54	88	0	1,238
若手(60日)	1	1	1	1	2	2	3	3	4	4	4	4	4	0	34
日米(90日)	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5	5	5	5	0	24
計	28	27	29	30	32	32	33	33	62	63	62	63	97	0	1,649

英語担当教員海外研修(年度別派遣人数 公立) (単位：人)

	元	H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19-22	23	24	25	26-R5	累計(S54-)	
2か月	2	2	2	2	2	2	3	2	2	/	/	/	/	/	0	6	4	5	0	0	0	0	0	0	53
6か月	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	3	3	3	4	0	0	0	0	0	1	1	1	0	29	
12か月	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	
計	3	3	4	4	4	4	5	4	5	4	4	4	4	4	0	6	4	5	0	1	1	1	0	93	

※2か月研修の平成10年度～平成14年度は休止 (令和5年12月現在 義務教育課・高校教育課調べ)

若手教員米国派遣交流事業 (単位：人)

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	累計(H23～)
若手(20日)	1	1	1	0	2	4	1	0	0	10

在外教育施設派遣教員数

令和5年度において、14名の教員(小学校10名、中学校4名)が日本人学校(在留邦人団体を母体とし、国内の小学校又は中学校と同等の教育を行う全日制の教育施設)に派遣されている。

派遣先	派遣人数	派遣者職名	派遣期間
メルボルン	1	小学校教諭	R3.4.1～R6.3.31
ニューヨーク	1	小学校教頭	R3.4.1～R6.3.31
パナマ	1	小学校教諭	R3.4.1～R6.3.31
ニューデリー	1	小学校教諭	R3.4.1～R6.3.31
アブダビ	1	小学校教諭	R4.4.1～R6.3.31
台北	2	小学校教諭	R4.4.1～R6.3.31
ボコタ	1	小学校教諭	R4.4.1～R6.3.31
バルセロナ	1	小学校教頭	R4.4.1～R6.3.31
フランクフルト	1	中学校教諭	R4.4.1～R6.3.31
ムンバイ	1	中学校教諭	R4.4.1～R6.3.31
パース	1	小学校教諭	R5.4.1～R7.3.31
広州	1	中学校教頭	R5.4.1～R7.3.31
プノンペン	1	中学校教諭	R5.4.1～R7.3.31

(令和5年4月1日現在 義務教育課調べ)

国際理解教育・国際交流

(1) 国際姉妹校

国際姉妹校は県内に10組ある。なお、姉妹校交流という形はとらないまでも、生徒の相互派遣をしている学校も少なくない。

学校名	姉妹校名	国	提携年度	活動状況
会津坂下町立坂下東小学校	ホベルト・ノリオ小学校	伯	H27	文通・作品交換、姉妹校訪問等
会津若松市立東山小学校	ゴールドトレイルスクール	米	S55	不定期で文通・作品交換、姉妹校訪問等(令和4年度は交流なし)
棚倉町立棚倉中学校	カーディフハイスクール	豪	H元	姉妹校訪問、児童生徒受入等(令和2年度に中止以降、新型コロナの影響により中止)
南相馬市立石神中学校	ロセットスクール	英	S62	姉妹校訪問、児童生徒受入等(2年に一度の交流、令和2年度、令和4年度と新型コロナの影響により中止)郵送物(手紙)による交流
福島高校	プリンセス チュラボーン サイエンス ハイスクール ナコン シー タマラート	泰	R4	生徒・教員の交流及び学習の協力、現地交流訪問、オンライン交流
福島南高校	ケステブン・グランサム女子中等学校	英	H5	
須賀川桐陽高校	グロスマンハイスクール	豪	H3	
田村高校	ライスレイクハイスクール	米	H12	
喜多方市立山都小学校	吉林省長春市西五小学校	中	H20	作品交換等(令和元年度から休止中)
大玉村立大玉中学校	桃園市立大竹國民中學	台	H29	姉妹校訪問等

(令和5年12月現在 義務教育課・高校教育課調べ)

(2) 県立高校による国際交流

①教育課程(科目名:国際交流)に位置付けられたもの(令和5年度)

学校名	行き先	訪問都市	日数	出発日・帰着日	参加生徒数	引率者数
郡山高校	フィリピン	スービック	9	2月17日(土)～2月25日(日)	40	2
あさか開成高校	オーストラリア	ゴールドコースト他	12	7月8日(土)～7月19日(水)	18	2
喜多方高校	オーストラリア	ケアンズ	9	12月2日(土)～12月10日(日)	16	2

(令和6年3月 高校教育課調べ)

②「震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業」において行うもの(令和5年度)

学校名	行き先	訪問都市	日数	出発日・帰着日	参加生徒数	引率者数
安積高校	タイ	バンコク	5	12月13日(水)～12月17日(日)	3	1
あさか開成高校	タイ	バンコク	5	12月13日(水)～12月17日(日)	3	1

(令和5年12月 高校教育課調べ)

③その他(令和5年度)

学校名	行き先	訪問都市	日数	出発日・帰着日	参加生徒数	引率者数
福島高校	イギリス	ロンドン	13	7月20日(木)～8月1日(火)	3	1
福島高校	タイ	ルーイ	7	12月18日(月)～12月24日(日)	4	2
福島明成高校	ニュージーランド	オークランド他	7	11月8日(水)～11月14日(火)	12	2
安積高校	フランス	パリ	7	12月4日(月)～12月10日(日)	7	2
安積高校	ドイツ	エッセン	5	1月6日(土)～1月11日(木)	12	2
会津学鳳高校	台湾	台北他	5	12月19日(火)～12月23日(土)	25	2
磐城桜が丘高校	スウェーデン	ストックホルム他	9	8月5日(土)～8月13日(日)	2	1
相馬農業	台湾	台北他	5	1月6日(土)～1月10日(水)	4	2
ふたば未来学園高校	ドイツ	フライブルク他	11	1月6日(土)～1月16日(火)	9	2
ふたば未来学園高校	アメリカ	ニューヨーク	10	3月16日(土)～3月25日(月)	12	3

(令和6年3月 高校教育課調べ)

(3) 海外への修学旅行

平成 10 年度からは、県立高校の海外修学旅行が可能になった。平成 20 年度以降の実績は次のとおり。

高校名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
福島	(マレーシア中止)					台湾	台湾	台湾	台湾						
福島東															
福島南						台湾	台湾	台湾	台湾		台湾	(シンガポール中止)			
梁川															
安達										台湾					
安積		韓国						台湾					(台湾中止)	(台湾国内へ変更)	
あさか開成	シンガポール	シンガポール			シンガポール	シンガポール	シンガポール	シンガポール	シンガポール	台湾	台湾	(台湾中止)		(台湾国内へ変更)	
岩瀬農業	中国			韓国											
光南		韓国													
会津															
喜多方東											台湾				
西会津											台湾				
会津農林															
南会津	韓国														
只見															
平商業					シンガポール										
いわき総合															
小名浜			韓国												
磐城農業		韓国													
勿来工業															
遠野		韓国													
四倉	韓国														
ふたば未来学園												(シンガポール・マレーシア中止)			
小高商業 (現小高商業技術 高校)					シンガポール	シンガポール									
白河第二 (会津学鳳中 学校)		韓国 (韓国)													

(高校教育課調べ)

<私立>

高校名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
福島高等学校	米国	米国	米国	米国	米国	米国	米国	米国	米国	米国	米国				
松栄高等学校	米国	米国													
福島成蹊高等学校	カナダ	カナダ	カナダ	カナダ	カナダ	カナダ トルコ	ベトナム カンボジア カンボジア 台湾	ベトナム カンボジア カンボジア 台湾	ベトナム カンボジア カンボジア 台湾	ベトナム カンボジア カンボジア 台湾	ベトナム カンボジア カンボジア 台湾	(ベトナム・カンボジア・カンボジア・台湾・マレーシア 中止)			マレーシア・カナダ
桜の聖母学院高等学校		カナダ		カナダ	カナダ	カナダ	カナダ		カナダ	カナダ	カナダ	(カナダ 中止)			
福島東陵高等学校								ニュージーランド	ニュージーランド 台湾	ニュージーランド 台湾	台湾	(ニュージーランド 中止)			
聖光学院高等学校								台湾							
郡山女子大附属高等学校	台湾							米国	米国	米国	ハワイ	(ハワイ 中止)			
帝京安積高等学校		オーストラリア	オーストラリア												
尚志高等学校		米国	米国	米国	米国	米国	米国	米国	米国	米国	米国	(米国 中止)			
日本大学東北高等学校		オーストラリア	オーストラリア												
学校法人石川高等学校		シンガポール	シンガポール	シンガポール カナダ	シンガポール カナダ	シンガポール	カナダ 台湾	台湾	台湾	台湾	台湾	(台湾・オーストラリア 中止)			台湾・オーストラリア
会津北嶺高等学校			韓国	韓国	韓国										
会津若松ザベリオ学園高等学校							シンガポール	シンガポール	シンガポール	シンガポール	シンガポール	(シンガポール 中止)			
仁愛高等学校	ハワイ (延期)	オーストラリア	ハワイ	ハワイ	仏	英	ドイツ	米国	イタリア	シンガポール	シンガポール				
磐城第一高等学校											ハワイ	(ハワイ 中止)	(ハワイ 中止)		台湾
磐城緑蔭高等学校															
東日本国際大学昌平高等学校		韓国			シンガポール							(グアム 中止)			グアム
いわき秀英高等学校	仏、ベルギー	仏、ベルギー	仏、独	仏、独	仏、独	仏、独		フィンランド スウェーデン	フィンランド スウェーデン	フィンランド スウェーデン		(仏・独 中止)			

(私学・法人課調べ)

(4) 朝河貫一賞

朝河貫一賞は、県内の中学高校生を対象に国際理解・国際交流に関する論文を募集し、表彰するもので、平成3年に創設された。世界の様々な文化や価値観を尊重し国際社会の平和と発展を担うことのできる国際性豊かな青少年を育成することを目的としている。

他国の現状を様々な角度から分析し、日本と他国との関わり方から自己の生き方を見つめたり、国際交流の在り方について思考を深めたりするなどの作品が多く見られる。

(義務教育課)

(5) ふくしまの高校生海外留学応援事業

福島県出身の世界的歴史学者である朝河貫一博士にならい、これからの社会に必要な世界的な広い視野を持ち、国際的リーダーとなるための人材を育成するため、アメリカの大学への留学を支援する。

高校在学中は、大学入学のための進路指導及びカレッジスキル等を育成する留学準備プログラムを行う。また、対象大学への入学決定後は、学費等の支援として、年間最大380万円を入学より4年間支給する。

(高校教育課)

県内大学の国際交流

(1) 会津大学

① グローバル推進本部

会津大学では、「研究教育分野の国際的連携」、「国際的人材の養成」、「地域特性に応じた連携の展開」、「国際戦略実行体制の整備」を4つの基本的な国際戦略として掲げ、平成17年7月に設置した会津大学国際戦略本部を中心として全学体制で国際交流活動を推進してきた。平成26年度以降は「スーパーグローバル大学創成支援」の採択を受け、グローバル推進本部として世界へ羽ばたくグローバル人材の育成を目指している。

② 国際交流協定

[大学間等交流協定締結先]

ロシア	サンクトペテルブルグ大学、サンクトペテルブルグ工科大学
中国	上海大学、上海交通大学、山東省科学院、東北大学秦皇島分校、東北大学、東南教育科学技術集団（大連東軟信息学院）、華中科技大学、ハルビン工業大学深圳校、中国地質大学、深圳大学、深圳市科学技術開発交流センター、燕山大学、武漢理工大学、成都信息学院、南昌大学、桂林電子科技大学
台湾	淡江大学、朝陽科技大学、国立中央大学・大学院天文研究所、国立東華大学、国立暨南大学
韓国	高麗大学、ハリム（翰林）大学
アメリカ	ローズハルマン工科大学、サンノゼ州立大学、マーサー大学
ドイツ	デュッセルドルフ専門大学、カールスルーエ応用科学大学、オストバイエルン・レーゲンスブルク応用科学
ベトナム	FPT大学、ベトナム国家大学ハノイ国際外国語大学、郵政電信工芸学院、ハノイ工科大学、ベトナム国家大学ハノイ・工業技術大学、ベトナム国家大学ホーチミン市国際大学
インド	インド工科大学デリー校、デリー大学、インドMITブネ芸術デザイン工科大学、インド工科大学ハイデラバード校、アショカ大学、国際情報科学大学ハイデラバード校、国立工科大学デリー校、インド経営工学研究所、ハイデラバード大学、インド工科大学キャンプール
ポルトガル	ポルト大学
ニュージーランド	ワイカト大学
エストニア	タリン工科大学
タイ	モンクット王トンプリー工科大学、チュラロンコーン大学、タマサート大学
コロンビア	ハベリアナ科学技術大学、イセシ大学
ポーランド	ポーランド科学アカデミー
香港	香港理工大学、基督教香港信義会元朗信義高校
チュニジア	カルタゴ大学
ブルガリア	ソフィア大学

ギリシャ	西マケドニア大学
スリランカ	スリランカ日本情報科学短期大学
ルクセンブルク	ルクセンブルク大学
デンマーク	コペンハーゲン IT 大学
マレーシア	華校董事連合会総会、マレーシア科学大学

《国際単位認定(ICRP)・デュアルディグリープログラム(DDP)・学部 2+2 プログラム (2+2、ICT グローバル編入学)・博士前期課程 1+1 プログラム (1+1)、グローバル 3+2 プログラム (3+2)》

中国	上海大学(DDP・1+1)、華中科技大学(DDP)、東北大学(3+2)、東北大学秦皇島分校(3+2)、中国地質大学(3+2)、燕山大学(3+2)
アメリカ	ローズハルマン工科大(ICEP)
韓国	ハリム大学工学部大学院(DDP)
台湾	朝陽科技大学(DDP)、淡江大学(DDP)
ベトナム	郵政電信工芸学院(1+1)、ハノイ工科大学(2+2)、ベトナム国家大学ハノイ工業技術大学(2+2)
コロンビア	ハベリアナ科学技術大学(1+1)
スリランカ	スリランカ日本情報科学短期大学 (ICT グローバル編入学)
ドイツ	カールスルーエ応用科学大学 (ICRP)、オストバイエルン・レーゲンスブルク応用科学(ICRP)、デュッセルドルフ専門大学 (ICRP)

《その他》

米国・中国	「サンノゼ州立大学・会津大学・大連東軟信息学院との一般協定」(サンノゼ州立大学、会津大学、大連東軟信息学院)
中国	「大連・福島産学協同 IT 人材育成モデルの一般協定」(大連東軟信息学院、会津大学、アルパイン株式会社)
タイ	「タマサート大学とバンブーパブリック株式会社間の一般協定」(タマサート大学、会津大学、バンブーパブリック株式会社)

③ 令和5年度の主な国際交流活動

(コロナ感染予防対策を講じた上、次の活動を実施した。)

- ・学部初年次から、英語のみで教養科目と専門科目を履修することにより卒業が可能なコース (ICT グローバルプログラム全コース) における受入れを継続している。
- ・海外の多くの大学と協定を結び、引き続き教育研究交流における連携を深めている。
- ・留学生が母国を紹介するインターナショナルトークをオンラインと対面のハイブリッド型にて実施し、学生、教職員の異文化理解を促進している。
- ・地域活性化活動として、会津若松市、福島県立博物館などと連携し、国際交流や地域課題解決につながる機会を創り出している。
- ・地域の高等学校や国際交流協会等と連携し、異文化間理解教育を深めるための講師派遣を行った。なお、留学生派遣についても、国際戦略室が主体となって、交流内容を事前に派遣先等と綿密に調整することにより、交流内容を充実させている。

④ 留学生 (令和5年12月1日現在) (外国人学生含む)

人数：192名

国/地域：中国(94)、ベトナム(14)、インド(16)、バングラデシュ(8)、台湾(11)、スリランカ(8)、ナイジェリア(4)、フィリピン(3)、コロンビア(1)、アメリカ(3)、インドネシア(3)、シリア(1)、ノルウェー(1)、パキスタン(2)、ルワンダ(1)、カメルーン(1)、カンボジア(1)、スペイン(1)、チュニジア(1)、ベラルーシ(1)、ロシア(1)、スロバキア(1)、カナダ(1)、トルコ(1)、ガンビア(1)、香港(2)、ネパール(1)、マレーシア(2)、ミャンマー(1)、ドイツ(4)、英国(1)、コンゴ(1)

⑤ 令和5年度国際学術交流事業について

開学以来、国際的な学術共同研究の実績を積み上げ、コンピュータサイエンスの分野において学術振興を図るため、国際ワークショップ、国際学術会議及び国際学術セミナーを開催している。令和5年12月までに「科学と工学におけるビッグデータ解析に関する国際会議」をはじめ、3つの国際会議を開催した。

⑥ 外国人教員(令和5年12月1日現在)

専任教員106名のうち外国人教員は41名(38.6%)

外国人教員の出身国は、中国(10)、ロシア(3)、カナダ(3)、インド(4)、韓国(3)、ベトナム(4)、アメリカ(2)、エジプト(1)、チュニジア(1)、フランス(1)、ブルガリア(1)、台湾(1)、コロンビア(1)、ニュージーランド(1)、イギリス(2)、オーストラリア(1)、イタリア(1)、マレーシア(1)の計18の国・地域

(2) 県立医科大学

① 国際交流協定

ア 中国：武漢大学（平成11年当時：湖北医科大学）

平成11年2月に国際学術交流協定を締結。（湖北医科大学は、平成12年8月に武漢大学に統合され武漢大学医学部となったことから、平成13年9月に武漢大学と基本協定の確認書を締結。）平成15年9月更新、平成20年11月更新、平成25年12月更新、平成31年1月更新。

交流実績

平成11年度	受入 2名（教員）
平成12年度	受入 4名（教員） / 派遣 1名（教員）
平成13年度	受入 3名（教員） / 派遣 2名（教員）
平成14年度	受入 3名（教員） / 派遣 2名（教員）
平成15年度	受入 3名（教員） / 派遣 2名（教員）
平成16年度	受入 3名（教員） / 派遣 2名（教員）
平成17年度	受入 3名（教員） / 派遣 2名（教員）
平成18年度	受入 3名（教員） / 派遣 2名（教員）
平成19年度	受入 3名（教員） / 派遣 2名（教員）
平成20年度	受入 3名（教員） / 派遣 3名（教員）
平成21年度	受入 3名（教員） / 派遣 3名（学生2名、教員1名）
平成22年度	受入 3名（教員） / 派遣 10名（学生4名・4名、教員2名）※
平成23年度	受入 3名（教員） / 派遣 6名（学生4名、教員2名）
平成24年度	受入 3名（教員） / 派遣 6名（学生4名、教員2名）
平成25年度	受入 3名（教員） / 派遣 6名（学生4名、教員2名）
平成26年度	受入 3名（教員） / 派遣 4名（学生4名）
平成27年度	受入 3名（教員） / 派遣 5名（学生3名、教員2名）
平成28年度	受入 4名（学生） / 派遣 6名（学生4名、教員2名）
平成29年度	受入 4名（学生） / 派遣 4名（学生4名）
平成30年度	受入 6名（学生） / 派遣 4名（学生）
令和元年度	受入 4名（学生） / 派遣 4名（学生）

※学生派遣時期を4月上旬～5月中旬の約1か月間から、3月上旬～4月中旬の約1か月間に時期を変更したため、年度内に学生を2回派遣

イ ベラルーシ共和国：ベラルーシ医科大学、ゴメリ医科大学

平成25年9月にベラルーシ医科大学、ゴメリ医科大学とそれぞれ学術交流協定を締結。本学から学生を短期留学派遣、ベラルーシ医科大学、ゴメリ医科大学から医師を短期間

招へいすることとした。

平成 28 年 1 月協定更新、平成 31 年 3 月協定更新。

交流実績

平成 25 年度	受入 2 名 (教員) / 派遣 1 名 (学生)
平成 26 年度	受入 2 名 (教員) / 派遣 1 名 (学生)
平成 27 年度	受入 2 名 (教員) / 派遣 1 名 (学生)
平成 28 年度	受入 2 名 (教員) / 派遣 1 名 (学生)
平成 29 年度	受入 2 名 (教員) / 派遣 2 名 (学生)
平成 30 年度	受入 2 名 (教員) / 派遣 2 名 (学生)
令和元年度	受入 2 名 (教員) / 派遣 3 名 (学生 2 名、教員 1 名)

ウ アメリカ：マウントサイナイ医科大学（ニューヨーク）

平成 25 年 6 月にマウントサイナイ医科大学の学生を災害医療研修で受入れたことを契機に平成 26 年 2 月に相互に学生を派遣研修させることを内容とする学術交流協定を締結。平成 31 年 1 月協定更新、令和 4 年 1 月協定更新。

交流実績

平成 25 年度	受入 2 名 (学生) / 派遣 1 名 (学生)
平成 26 年度	受入 2 名 (学生) / 派遣 1 名 (学生)
平成 27 年度	受入 2 名 (学生) / 派遣 2 名 (学生)
平成 28 年度	受入 3 名 (学生) / 派遣 2 名 (学生)
平成 29 年度	受入 2 名 (学生) / 派遣 2 名 (学生)
平成 30 年度	受入 2 名 (学生) / 派遣 2 名 (学生)
令和元年度	受入 2 名 (学生) / 派遣 2 名 (学生)
令和 5 年度	受入 2 名 (学生) / 派遣 2 名 (学生)

エ アメリカ：オハイオ州立大学放射線腫瘍学講座（コロンバス）

平成 29 年 6 月に人的交流の枠組みとして包括的な学術交流協定を締結。

放射線腫瘍学分野における若手研究者の育成促進のため、ポスドク、医学部生の短期派遣を実施予定。令和 4 年 10 月更新。

交流実績

平成 30 年度	派遣 4 名 (学生 2 名、教員 2 名)
令和元年度	派遣 4 名 (学生 2 名、教員 1 名、研修医 1 名)
令和 5 年度	派遣 7 名 (学生 6 名、教員 1 名)

オ ベトナム：ホーチミン市医科薬科大学との国際学術交流

平成 28 年 8 月、公衆衛生・保健・医療分野における JICA 草の根技術協力事業で長年のカウンターパートであったホーチミン市医科薬科大学と、人的交流の更なる促進のため包括的な学術交流協定を締結、平成 31 年 3 月協定更新、令和 4 年 3 月協定更新。

交流実績

平成 28 年度	派遣 2 名 (学生 1 名、教員 1 名)
平成 29 年度	受入 2 名 (医師) / 派遣 2 名 (学生 1 名、教員 1 名)
平成 30 年度	派遣 4 名 (学生 2 名、教員 2 名)
令和元年度	派遣 3 名 (学生 1 名、教員 2 名)

カ ロシア：メーチニコフ名称国立北西医科大学

文部科学省の事業「日露の大学間連携による災害・被ばく医療科学分野におけるリーダー

「一育成事業」に採択されたことを受け、平成 30 年 3 月に協定を締結。長崎大学と連携し運営している共同大学院を中心として、平成 30 年度からは教員、学生の受入・派遣を行っている。

交流実績

平成 30 年度	派遣 6 名（教員 4 名、学生 2 名）
令和元年度	受入 5 名（学生） / 派遣 3 名（学生 2 名、教員 1 名）
令和 2 年度	受入 6 名（学生） / 派遣 3 名（学生 1 名） ※共にオンライン
令和 3 年度	受入 0 名（学生） / 派遣 1 名（学生 1 名） ※オンライン

キ シンガポール：シンガポール国立大学医学部

令和 2 年 1 月、研究者間の関わりを深めるとともに、学生を含めた幅広い交流促進につなげるため、大学間交流協定を締結し、調印式をオンライン形式で実施。

交流実績

令和 5 年度	受入 1 名（学生） / 派遣 2 名（学生 2 名）
---------	-----------------------------

ク 台湾：国立台湾大学医学院

令和 4 年 6 月に開催された「福島県の近代医学 150 周年記念シンポジウム」での国立台湾大学医学院長の記念講演を契機に、令和 4 年 12 月、医学研究の共同プロジェクト等の更なる推進、学術セミナー等の共同開催、及び学生の交流促進を目的に学術交流協定を締結。

ケ ドイツ：ユリウス・マクシミリアン大学ヴュルツブルク（ヴュルツブルク大学）

ヴュルツブルク大学と本学は、東日本大震災以降、WHO-REMPAN（国際緊急被ばく医療ネットワーク）のメンバーとして、国際会議の場などで専門家交流を続けてきたが、令和 5 年 10 月、原子力災害医療の連携協力及び先端核医学の分野での共同研究の推進を図ることを目的として、学術交流協定を締結。

② 国際機関との連携協定

ア オーストリア：国際原子力機関（IAEA：International Atomic Energy Agency）

平成 24 年 12 月、人の健康の分野における協力に関して協定を締結。

協定の主な内容は以下のとおり：

- ・ IAEA による福島健康管理調査プロジェクトの実施支援。
- ・ IAEA 及び本学による、人の健康プログラム（放射線緊急医療を含む）に関する能力開発及び研究協力。
- ・ 会議、セミナー及びワークショップの開催。
- ・ 専門家による支援及び情報の交換等。

研究者の往来数、或いは国際会議共同開催実績等

年度	国際会議共同開催実績等
平成 24 年度	・ IAEA 郡山会議（12 月 15 日～17 日）
平成 25 年度	・ FMU-IAEA 国際学術会議（11 月 21 日～24 日）
平成 26 年度	・ 第 2 回 FMU-IAEA 国際学術会議 ・ IAEA 国際専門家会議（5 月 19 日～23 日） ・ FMU-IAEA 国際学術会議（7 月 25 日～27 日） ・ FMU-IAEA Consultancy meeting（12 月 1 日～15 日）
平成 27 年度	・ IAEA 医学物理士会議（放医研）にスピーカー派遣 ・ FMU-IAEA テクニカルミーティング及びトレーニングミーティング（3 月 9 日～11 日）
平成 29 年度	・ IAEA-STC Consultancy Meeting（広島大）（5 月 23 日～24 日）にスピーカー等として参加

	・ IAEA-FMU Consultancy Meeting on Review and Future of STS (医大) (8月29日～30日) 開催
平成30年度	・ IAEA-STS Consultancy Meeting (医大) (1月16日～17日) 開催 ・ 放射線災害・医科学研究拠点第3回国際シンポジウム (1/13～1/14)
令和元年度	・ FMU-IAEA テクニカルミーティング及びトレーニングミーティング (医大) (5月28日～30日) ・ IAEA-STS Consultancy Meeting (IAEA) (12月11日～12日) にスピーカー等として参加
令和2年度	・ IAEA-STS Consultancy Meeting (医大) (10月21日～22日) 開催
令和3年度	・ IAEA テクニカルミーティング (広島大及びオンライン) (11月9日～11日)
令和4年度	・ IAEA Consultancy Meeting (オンライン) (6月21日～22日) ・ IAEA テクニカルミーティング (ハイブリッド) (11月2日～4日) ・ IAEA Consultancy Meeting (virtual meeting) (3月2日)

イ カナダ：国際放射線防護協会 (ICRP: International Commission on Radiological Protection)

平成26年2月、放射線防護のシステムに関連する情報・アドバイスの提供等に関して協定を締結。

協定の主な内容は以下のとおり：

- ・ ICRP による放射線防護のシステムに関連する情報・アドバイスの提供。
- ・ 本学による情報やアドバイスの提供。
- ・ 本学による後方支援の提供。
- ・ 両者による共同事業の開発、等。

研究者の往来数、或いは国際会議共同開催実績等

年度	国際会議共同開催実績等
平成23年度	・ 第1回ダイアログセミナー (11月26日～27日)
平成24年度	・ 第2回ダイアログセミナー (2月25日～26日) ・ 第3回ダイアログセミナー (7月7日～8日) ・ 第4回ダイアログセミナー (11月10日～11日)
平成25年度	・ 第5回ダイアログセミナー (3月2日～3日) ・ 第6回ダイアログセミナー (7月6日～7日) ・ FMU-ICRP Informal Meeting (7月8日) ・ 第7回ダイアログセミナー (11月30日～12月1日)
平成26年度	・ 第8回ダイアログセミナー (5月10日～11日) ・ 第9回ダイアログセミナー (8月30日) ・ 第10回ダイアログセミナー (12月6日～7日)
平成27年度	・ 第11回ダイアログセミナー (5月30日～31日) ・ 第2回 ICRP 放射線防護における倫理ワークショップ (6月2日) ・ 第12回ダイアログセミナー (9月12日～13日)

平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICRP 飯舘村フォローアップダイアログセミナー（7 月 9 日～10 日） ・ 双葉地方（川内村）におけるダイアログセミナー（10 月 1 日～2 日） ・ 双葉・大熊におけるダイアログセミナー（3 月 11 日～12 日）
平成 29 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICRP Task Group 93 会議（7 月 5 日～7 日） ・ 伊達ダイアログセミナー（7 月 8 日～9 日） ・ ICRP Task Group 101 会議等（10 月 2 日～4 日） ・ 山木屋ダイアログセミナー（11 月 25 日～26 日）
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福島ダイアログセミナー（12 月 15 日～16 日）
令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ICRP 原子力事故後の復興に関する国際会議」（オンライン会議、12 月 1 日～4 日）に座長・スピーカー等として参加
令和 5 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 7 回 ICRP 国際シンポジウム “ICRP2023”（東京：11 月 6 日～9 日）にスピーカーとして参加

ウ スイス：世界保健機関（WHO：World Health Organization）

平成 30 年 5 月、ふくしま国際医療科学センターが世界保健機関協力センターに指定を受ける。

世界保健機関協力センターとしての主な協力内容は以下のとおり：

- ・ 緊急被ばく対応に関する各国能力強化。
- ・ 原子力緊急事態により影響を受けた人々に対する事故後復興期及び長期的フォローアップ。
- ・ 放射線災害準備及び対応に関する教育・訓練・情報の普及 等。

研究者の往来数、或いは国際会議共同開催実績等

年度	国際会議共同開催実績等
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界保健機関協力センター第 3 回アジアフォーラム（11 月 22 日～23 日）
令和 5 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「第 17 回 WHO-REMPAN 緊急被ばく医療国際専門家会議」（ソウル：9 月 13 日～15 日）に座長・スピーカーとして参加

エ フランス：放射線防護・原子力安全研究所

（IRSN：The Institute for Radiation Protection and Nuclear Safety）

IRSN と本学は、福島第一原子力発電所事故後より放射線防護に関する共同研究やワークショップ、シンポジウムの開催等を通じて交流を進めてきたが、令和 3 年 3 月、研究者交流の更なる活性化と、教員、研究者、学生の交流促進を目的に交流協定を締結。

オ フランス：原子力防護評価研究所（CEPN：Nuclear Protection Evaluation Centre）

CEPN と本学は、2011 年の福島第一原子力発電所事故以来、共同研究などを通じて、事故後の状況の把握、国際的専門家視点によるアドバイス、科学的に正しい理解の共有など継続的な情報発信、知見の共有を続けてきたが、令和 3 年 3 月、研究者交流の更なる活性化と、教員、研究者、学生の交流促進を目的に交流協定を締結。

③ 国際医学生連盟（IFMSA）の短期留学生

平成 22 年度 フリードリヒ・シラー大学(1)、バスケット大学(1)、南デンマーク大学(1)

平成 25 年度 エルマナール大学(1)

平成 26 年度 ベルゲン大学(1)、東フィンランド大学(1)

平成 27 年度 フローニンゲン大学(1)

平成 28 年度 南デンマーク大学(1)、ソノラ大学(1)
 平成 29 年度 エストニア(1)、チュニジア(1)、ポルトガル(1)
 平成 30 年度 スウェーデン(1)、ポルトガル(1)、スロバキア(1)
 令和元年度 トルコ(1)、ブラジル(1)
 令和 2 年度 実績なし
 令和 3 年度 実績なし
 令和 4 年度 フィンランド(1)

④ 留学生（令和 5 年 12 月末日現在）

人数：2 名

出身国/地域：ネパール(1)、モロッコ(1)

⑤ 外国人教員（令和 5 年 12 月末日現在）

専任教員 813 名のうち外国人教員は 8 名 (0.8%)

出身国/地域：中国(3)、韓国(1)、イギリス(1)、アメリカ(2)、スーダン(1)

(3) 福島大学

福島大学では大学間交流協定に基づき海外の 55 大学と学術交流協定を締結している。また、37 大学と学生交流協定を締結しており、学生の派遣・受入れによる交流を行っている。

① 学術交流協定締結校 24 か国・地域 55 大学

国名・地域	協定先
中国	北京師範大学
	華東師範大学
	河北大学
	中南財經政法大学
	西南交通大学
	重慶理工大学
台湾	国立台北大学
	文藻外語大学
韓国	韓国外国語大学校
	ソウル市立大学校
	中央大学校
	培材大学校
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学
	ベトナム国家大学ハノイ自然科学大学
	ホアセン大学
	トゥイロイ大学
マレーシア	マレーシア国際イスラム大学
インドネシア	シアクアラ大学
フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学
	サン・カルロス大学
オーストラリア	クィーンズランド大学
アメリカ合衆国	ウィスコンシン大学オークレア校
	ミドルテネシー州立大学
	ニューヨーク州立大学アルバニー校
	コロラド州立大学
	サンフランシスコ州立大学
	オザークス大学
	ジョージア大学

	セント・トーマス大学
	ルイジアナ州立大学
カナダ	ブリティッシュコロンビア大学
	マクマスター大学
英国	ノーサンブリア大学
	グラスゴー大学
	ポーツマス大学
ドイツ	ルール大学ボーフム
	ハノーファー大学
	ルードヴィヒスハーフェン経済大学
	ミュンスター応用科学大学
オランダ	ハンザUAS・フローニンゲン大学
スペイン	サラゴサ大学
ハンガリー	カーロリ・ガーシュパール・カルビン派大学
スロベニア	リュブリャナ大学
セルビア	ベオグラード大学
ルーマニア	ブカレスト大学
ベラルーシ	ベラルーシ国立大学
ロシア	極東国立交通大学
ウクライナ	ウクライナ国立生命環境科学大学
	チェルニーヒウ国立工科大学
	オデッサ国立環境大学
ノルウェー	ノルウェー生命科学大学
トルコ	アンカラ大学
	中東工科大学
	エーゲ大学
モンゴル	モンゴル生命科学大学

(令和5年12月末日現在)

② 学生交流協定締結校 17か国・地域 37大学

国名・地域	協定先
中国	華東師範大学
	河北大学
	重慶理工大学
台湾	国立台北大学
	文藻外語大学
韓国	韓国外国語大学校
	ソウル市立大学校
	中央大学校
	培材大学校
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学
	トゥイロイ大学
フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学
アメリカ合衆国	ニューヨーク州立大学アルバニー校
	コロラド州立大学
	サンフランシスコ州立大学
	オザークス大学
	セント・トーマス大学
	ルイジアナ州立大学

英国	ノーサンブリア大学
	グラスゴー大学
	スターリング大学※
	ウィンチェスター大学※
ドイツ	ルール大学ボーフム
	ハノーファー大学
	ルードヴィヒスハーフェン経済大学
	ミュンスター応用科学大学
オランダ	ハンザUAS・フローニンゲン大学
スペイン	サラゴサ大学
ハンガリー	カーロリ・ガーシュパール・カルビン派大学
スロベニア	リュブリャナ大学
セルビア	ベオグラード大学
ルーマニア	ブカレスト大学
ベラルーシ	ベラルーシ国立大学
ロシア	極東国立交通大学
トルコ	アンカラ大学
	中東工科大学
	エーゲ大学

(令和5年12月末日現在)

※ スターリング大学、ウィンチェスター大学は、本学学生派遣に係る付帯協定を締結

《令和5年度学生交流実績》(令和5年12月末日現在)

・交換留学派遣 (計7名)

ノーサンブリア大学(1)、ハノーファー大学(1)、オザークス大学(2)、
セント・トーマス大学(1)、サラゴサ大学(1)、
カーロリ・ガーシュパール・カルビン派大学(1)

・交換留学受入 (計18名)

河北大学(6)、文藻外語大学(2)、ルール大学ボーフム(4)、ミュンスター応用科学大学
(1)、ルードヴィヒスハーフェン経済大学(2)、ノーサンブリア大学(1)、カーロリ・ガー
シュパール・カルビン派大学(2)

③ 外国人教員 (令和5年12月末日現在)

専任教員数：222名のうち11名(5.0%)

出身国/地域：韓国(3)、カナダ(2)、ドイツ(1)、ロシア(1)、アメリカ(1)、中国(1)、
ウクライナ(1)、バングラデシュ(1)

④ 留学生 (令和5年12月末日現在)

人数：89名

出身国/地域：中国(32)、マレーシア(16)、ベトナム(14)、ドイツ(7)、台湾(4)、バングラ
デシュ(3)、ハンガリー(2)、セルビア(2)、インドネシア(2)、モンゴル(1)、
ブラジル(1)、パキスタン(1)、タイ(1)、セネガル(1)、ウクライナ(1)、
イギリス(1)

(4) 日本大学工学部

① 学術交流締結校 (令和5年12月末日現在)

提携先国名	提携校名
アメリカ	テキサス大学オースチン校工学部
スウェーデン	ウメヲ大学理工学部

インドネシア	ジェンデラル・スディルマン大学 バンドン工科大学 ディポネゴロ大学
インド	インド工科大学カンプール校 インド工科大学ジョドプール校
イギリス	アベリストウィス大学
チェコ	チェコ科学アカデミージオニクス研究所

② テキサス大学オースチン校工学部との交流実績

提携期間（希望期間）	交流実績
1990. 9. 1～1995. 8. 31	・教員 5 名、大学院生 8 名を派遣 ・学術研究等について情報交換を行った。
1995. 9. 1～2000. 8. 31	・教員 4 名、大学院生 2 名を派遣 ・テキサス大学より教員 4 名を招へいし、特別講義・セミナー・共同研究打合せを行った。(1998. 7. 5-1998. 7. 11) ・学術研究等について情報交換を行った。
2000. 9. 1～2005. 8. 31	・学術研究等について情報交換を行った。
2005. 9. 1～2010. 8. 31	<事業計画> ・短期語学研修等を行い、学生の交換を行った。 ・学術研究等の情報交換を行った。
2010. 9. 1～	<事業計画> ・短期語学研修等を行い、学生の交換を行った。 ・学術研究等の情報交換を行う ・博士課程への進学実績あり ・教職員の派遣・招聘あり
2015. 9. 1～	<事業計画> ・大学院生 1 名を派遣 ・学術研究等の情報交換を行う

③ ウメフ大学理工学部との交流実績

年度	交流実績	受入・派遣人数
平成 15 年度	平成 15 年 11 月 26 日～12 月 4 日 (9 日間)	派遣者：1 名
平成 16 年度	平成 16 年 10 月 24 日～10 月 29 日 (6 日間)	訪問者：8 名
	平成 17 年 1 月 23 日～1 月 30 日 (8 日間)	派遣者：11 名
平成 17 年度	平成 17 年 10 月 25 日～11 月 2 日 (9 日間)	派遣者：1 名
	平成 17 年 10 月 25 日～10 月 31 日 (7 日間)	派遣者：1 名
	平成 18 年 2 月 20 日 (1 日間)	訪問者：11 名
平成 18 年度	平成 18 年 5 月 28 日～6 月 7 日 (11 日間)	派遣者：14 名
	平成 18 年 11 月 14 日～11 月 17 日 (4 日間)	訪問者：6 名
	平成 19 年 3 月 28 日～3 月 31 日 (4 日間)	派遣者：1 名
平成 19 年度	平成 19 年 10 月 27 日～11 月 1 日 (6 日間)	招聘者：1 名
平成 20 年度	平成 20 年 6 月 22 日～6 月 26 日 (5 日間)	派遣者：1 名
	平成 20 年 11 月 20 日～11 月 23 日 (4 日間)	訪問者：1 名
平成 21 年度	平成 21 年 8 月 18 日～8 月 22 日 (5 日間)	派遣者：1 名
	平成 21 年 8 月 28 日～9 月 6 日 (10 日間)	派遣者：1 名
	平成 21 年 10 月 26 日～10 月 29 日 (4 日間)	派遣者：1 名
平成 23 年度	平成 24 年 3 月 24 日～3 月 30 日 (7 日間)	派遣者：1 名
平成 24 年度	平成 24 年 10 月 16 日～10 月 17 日 (2 日間)	訪問者：2 名
	平成 24 年 10 月 25 日～11 月 4 日 (10 日間)	派遣者：1 名
平成 25 年度	平成 25 年 11 月 24 日～11 月 28 日 (5 日間)	派遣者：2 名

平成 27 年度	平成 27 年 11 月 27 日～12 月 4 日 (8 日間)	派遣者：1 名
平成 29 年度	平成 30 年 3 月 1 日～3 月 9 日 (9 日間)	派遣者：1 名

④ ベルガモ大学との交流実績

年度	交流実績
平成 26 年度	平成 26 年 8 月 27 日～9 月 6 日 (11 日間) 平成 27 年 1 月 4 日～1 月 12 日 (9 日間) 学術研究等について情報交換を行った。
平成 27 年度	平成 27 年 8 月 31 日～9 月 11 日 (12 日間) 平成 27 年 12 月 17 日～12 月 28 日 (12 日間) 学術研究等について情報交換を行った。
平成 28 年度	平成 28 年 6 月 8 日～6 月 15 日 (8 日間) 平成 29 年 3 月 27 日～3 月 31 日 (5 日間) 学術研究等について情報交換を行った。
平成 29 年度	平成 29 年 4 月 1 日～4 月 4 日 (4 日間) 平成 29 年 9 月 3 日～9 月 10 日 (8 日間) 平成 29 年 12 月 16 日～12 月 20 日 (5 日間) 平成 30 年 3 月 6 日～3 月 10 日 (5 日間) 学術研究等について情報交換を行った。
平成 30 年度	平成 30 年 9 月 1 日～9 月 7 日 (7 日間) 学術研究等について情報交換を行った。

⑤ ジェンデラル・スディルマン大学との交流実績

年度	交流実績
平成 29 年度	平成 29 年 6 月 8 日 平成 29 年 7 月 11 日 学術研究等について情報交換を行った。

⑥ サクロ・クオーレカトリック大学との交流実績

年度	交流実績
平成 29 年度	平成 29 年 12 月 18 日 学術研究等について情報交換を行った。

⑦ バンドン工科大学との交流実績

年度	交流実績
平成 30 年度	平成 30 年 11 月 30 日 学術研究等について情報交換及び当該大学院生へ講義を行った。

⑧ インド工科大学カンプール校との交流実績

年度	交流実績
平成 30 年度	平成 30 年 2 月 23 日～3 月 16 日 学術研究等について情報交換を行った。
令和元年度	令和元年 9 月 12 日 来学し、学術研究等について情報交換を行った。

(5) 東日本国際大学

① 大学間交流協定締結校

提携先国名	提携校名
アメリカ	ハワイ州カウアイ・コミュニティ・カレッジ (2011. 5) ワシントン州立大学トライシティーズ校 (2022. 9)

	コロンビアバイスン短期大学 (2022. 9)
韓国	成均館大学校 (1996. 6) 世京大学 (1997. 1) 金浦大学 (2001. 10) 慶南大学校 (2016. 9)
台湾	和春技術学院 (1995. 12) 開南大学 (2008. 7)
中国	曲阜師範大学 (1996. 5) 曲阜師範学校 (1993. 3) 撫順師範高等専科学校 (1993. 3) 中国政法大学 (1999. 10) 安徽大学 (2009. 9) 大連民族大学 (2000. 10) 香港孔教学院 (2002. 6) 瀋陽体育学院 (2002. 7) 山東大学 (2011. 10)
タイ	ファースト・グローバル・コミュニティ・カレッジ (2001. 1)
イギリス	カンタベリー・クライスト・チャーチ大学 (2017. 6)
メキシコ	日本メキシコ学院 (日墨学院) (2022. 1)

② 交流内容

平成 19 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・曲阜師範学校、香港孔教学院代表が本学を訪問、孔子祭に参加 (H19. 6) ・撫順市友好交流代表団が本学を訪問 (H19. 6) ・国際センター長他が香港孔教学院を訪問 (H19. 9) ・曲阜師範学校代表が本学を訪問、鎌山祭を見学 (H19. 10) ・上海電気学院代表が本学を訪問 (H19. 10)
平成 20 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・香港孔教学院、和春技術学院代表が本学を訪問、孔子祭及び論文発表会に参加 (H20. 6) ・国際センター長他が開南大学を訪問、交流協定を締結 (H20. 7) ・国際センター長他が和春技術学院校長を訪問 (H20. 7) ・国際センター次長他が成均館大学校を訪問、交流活動の打合せ (H20. 9) ・事務局長、国際センター長他が上海電気学院創立 55 周年記念式典・国際フォーラムに参加 (H20. 10) ・附属高校生徒 111 名が修学旅行で成均館大学校を訪問 (H20. 11) ・事務局長、国際センター長他が成均館大学校を訪問 (H20. 12)
平成 21 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・成均館大学校、香港孔教学院代表が本学を訪問、孔子祭に参加 (H21. 6) ・経済情報学部生 1 名が協定に基づき大連民族学院へ短期留学 (H21. 8～11) ・安徽大学副学長他 12 名が本学を訪問 (H21. 10) ・事務局長、副学長、国際センター長が成均館大学校を訪問 (H21. 11)
平成 22 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長、副学長、国際センター長が成均館大学校を訪問し孔夫子誕降 2561 年春期釈尊大祭 (孔子祭) に参加。 (H22. 5) ・国立台湾大学、成均館大学校、安徽大学、香港孔教学院の代表者が本学訪問、孔子祭、国際交流懇親会 (トークラウンジ) に参加。 ・経済情報学部 准教授 1 名が協定に基づき成均館大学校、儒学東洋学部共同研究員として派遣。 (H22. 7～9) ・国際センター長が成均館大学校を訪問。 (H22. 7) ・副理事長、留学生別科長、国際センター長が中国山東大学訪問 (H22. 9) ・副理事長、国際センター長、国際センター職員 3 名が成均館大学校を訪問 (H22. 9) ・韓国・世京大学訪問団が本学を視察 (H22. 10) ・本学経済情報学部教員が中国山東大学文史哲研究院に派遣。 (H23. 2～3)
平成 23 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長・国際センター長がアメリカ・ハワイ州のカウアイ島を訪問し、カウアイ・コミュニティ・カレッジとの友好協定の打合せを実施 (H23. 2) し、姉妹校を協定締結 (H23. 5) ・副理事長・国際センター長・本学教員一人が韓国の成均館大学校を訪問 (H23. 7) ・理事長・教授が香港孔教学院の孔子祭に参加 (H23. 9) ・副理事長が団長とする中国山東大学訪問団 (7 人) が山東大学にて開催される創立 110 周年記念国際シンポジウムに参加し、学術交流を図るとともに姉妹校協定を締結 (H23. 10)
平成 24 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・本学経済情報学部教員 1 名が台湾和春技術学院を訪問し、国際シンポジウムで講演 (H24. 4)

	<ul style="list-style-type: none"> ・台湾和春技術学院から2名の学生が研修の為来学 (H24.6) ・協定締結校の韓国成均館大学校、中国山東大学、香港孔教学院を始め、今後の交流が期待される国立台湾大学からの代表者が来学し、孔子祭及びシンポジウムに参加した。(H24.6) ・韓国成均館大学校に本学国際センター長、経済情報学部教員が訪問し、韓国成均館大学校の儒学大学院長と交流し、両学の協力関係をより深めるようになった。(H24.7)
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・協定締結校の韓国成均館大学校、中国山東大学、国立台湾大学からの代表者が来学し、学校法人昌平賢創立 110 周年記念式典、孔子祭及びシンポジウムに参加した。(H25.6) ・韓国成均館大学校に本学理事長、国際センター長、経済情報学部教員が訪問し、韓国成均館大学校の儒学大学院長と交流し、両学の協力関係をより深めるようになった。(H25.7) ・国際センター係長が台湾和春技術学院を訪問し、現地の教職員及び学生と交流した (H25.7) ・国際センター係長がネパールの日本語教育機関を訪問し、本学への留学理解を深める。現地の学生と交流した (H25.7) ・本学経済情報学部教授が中国山東大学を訪問し、現地の教職員及び学生と交流 (H26.2) ・本学学長が、ふくしまフェスティバル IN ハノイに参加 (H25.11)
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・国立台湾大学及び孔子第 79 代直裔が本学を訪問 (H26.6) ・教育研究・交流のため、協定提携校中国山東大学教員 2 名を受入れ (H26.10~11) ・本学理事長が協定提携校韓国成均館大学校を 2 回訪問 (H26.7・10) ・本学教員及び学生が協定提携校韓国成均館大学校を訪問 (H26.8)
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・日中韓三か国シンポジウムに理事長、儒学文化研究所長、東洋思想研究所長・副所長及び教員が参加 ・学生による海外研修・異文化交流 ・教員による韓国成均館大学校での研修・交流 ・学生がイギリスに行き、英語特別講座など異文化交流
平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・学生による海外研修 (2016.9) ・韓国慶南大学校関係者が来学・学術交流 (2016.9) ・イギリスカンタベリー・クライスト・チャーチ大学教員が来学・交流 (2016.10) ・嘉悦大学学長補佐であるビシュワ ラズ カンデル氏が来学し、ネパール留学生指導要領について講義 (2016.10) ・中国上海専門学校関係者が来学・交流 (2016.10) ・学術交流・教育関係交流のため、本学による大連民族大学訪問 (2016.12) ・カナダのクィーンズ大学教員が来学・交流 (2017.1) ・アメリカのオースティン・コミュニティ・カレッジ教員が来学・交流 (2017.1) ・学生がイギリスに行き、英語特別講座など異文化交流 (2017.2) ・タイ青少年訪日団が来学・異文化学習及び交流 (2017.3)
平成 29 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ青少年訪日団が来学・異文化学習及び交流 (2017.4) ・理事長、学長の韓国慶南大学校訪問 (2017.4) ・理事長、学長の韓国成均館大学校及び成均館訪問 (2017.4) ・韓国慶南大学校総長・前統一部長官が来学・記念講演等学術交流 (2017.6) ・イギリスカンタベリー・クライスト・チャーチ大学教員が来学・協定調印式 (2017.6) ・理事長、大学教職員の韓国成均館大学校訪問・交流 (2017.7) ・本学学部生が大連民族大学へ短期語学留学 (2017.8~9) ・姉妹校イギリスカンタベリー・クライスト・チャーチのターナー先生によるイギリス紹介のプレゼンテーション (2017.10) ・日中友好交流キャンプ (2017.11) ・駐エジプト日本大使館の大使による講演 (2017.11) ・東日本国際大学海外事務所全体会議 (2018.2)

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語スピーチコンテスト参加 (2018. 2) ・学生がイギリスに行き、英語特別講座など異文化交流 (2018. 2～3) ・エジプト考古学研究所によるエジプトツアー (2018. 3) ・タイ青少年訪日団が来学・異文化学習及び交流 (2018. 3)
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ青少年訪日団が来学・異文化学習及び交流 (2018. 4) ・第八回太平洋・島サミット期間中、本学学生は交際交流の一環として活動に参加 (2018. 5) ・学生がイギリスに行き、カンタベリー・クライスト・チャーチ大学にて英語特別講座など異文化交流 (2018. 9～10) ・韓国成均館大学校・中国山東大学などの提携校が参加した本学で行った第七回日中韓国際学術シンポジウムを通して、互いに学術交流を深めた (2018. 6) ・海外研修として、本学学生 4 名が韓国へ行って提携校の成均館大学校を訪問し交流していた (2018. 8) ・本学学生による日本語スピーチコンテスト参加 (2018. 10) ・本学学生は地域小中高等学校の生徒達と国際交流 (2018. 11/2019. 1) ・ペルーからの学生が本学を訪問し、日本文化を体験 (2019. 1) ・本学情報発信チーム「グローバルネットワーク」が日ごろ、学生の目線でいわき市の魅力を広く発信している (通年) ・本学理事長孔子第 77 代嫡生誕 100 年記念行事に参加し、韓国成均館大学校及び大和大学と交流 (2019. 1) ・学生がイギリスに行き、カンタベリー・クライスト・チャーチ大学にて英語特別講座など異文化交流 (2019. 2) ・タイ青少年訪日団が来学・異文化学習及び交流 (2019. 3)
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ青少年訪日団が来学・異文化学習及び交流 (2019. 4) ・異文化交流事業「留学生と市民とのつどい」(料理教室 2019. 7) ・姉妹校表敬訪問 (韓国成均館大学校 2019. 7 2019. 11) ・福島復興創世研究所員米国ハンフォード地域訪問 (2019. 7) ・海フェス 2019in 薄磯 (留学生が運営スタッフとして参加 2019. 7) ・海外研修 (台湾 開南大学 2019. 8) ・広野町との復興事業「大正大学とスタディツアーに留学生も参加 (2019. 8) ・第 8 回日中韓国際学術会議 (中国青島 山東大学主管 2019. 9) ・留学生と中学生の異文化交流会 (いわき市立中央台北中学校 2019. 9) ・ミャンマーの卒業生との交流会 (2019. 10) ・福島復興創世研究所主催公開セミナー「米国ハンフォードの知見に学ぶ復興創生」開催 (2019. 11) ・いわき地球市民フェスティバル「日本語スピーチコンテスト」(2019. 12) ・ペルー青少年研修団来学 (2020. 1) ・本学主催の国際シンポジウム「米国ハンフォードの知見に学ぶ福島浜通りの復興創生」開催 (2020. 1) ・「中南米・北米移住者子弟研修受入事業」として、グローバルネットワークプラスの方々と研修生との交流 (2020. 1.) ・いわき市国際交流協会主催「留学生との交流事業・日本料理教室」(2020. 1) ・英語講座 (英国) 研修 (英国カンタベリー-CCCU 2020. 2～3)
令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・日本 5 大学協働事業 福島復興シンポジウム「福島復興に必要な国際教育研究拠点とは何か？地域再生と社会イノベーションを考える」を開催 (2020. 08) ・東日本大震災 と原発事故からの 10 年「災害現場の初動から真の復興、そしてウィズコロナの未来へ向けて」を開催 (2020. 10) ・第 19 回地球市民フェスティバル「オンライン日本語スピーチコンテスト」(2020. 11) ・本学エジプト研究所第 5 回公開研究会 オンラインで開催 (2020. 12) ・オンライン国際セミナー『米国ハンフォードの知見に学ぶ福島浜通りの復興創生「大西・トリプレット レポート」を踏まえて』開催 (2021. 01)

	・英語講座（英国）研修 オンライン（英国カンタベリー-CCCU 2021.02～03）
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・本学留学生が福島県立高校の異文化交流に講師として参加（2021.7/2021.10） ・いわき地区商工会女性会員との交流（2021.8） ・いわき旅づくりプロジェクト事前学習に参加し住民と交流（2021.10） ・広野中学校のグローバルディに本学の留学生を講師として派遣している（2021.10～） ・第9回日中韓国際学術シンポジウム（オンライン）（2021.11） ・第20回いわき地球市民フェスティバル日本語スピーチ動画コンテストで、本学留学生が多数参加し優勝を果たした（2021.11）
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ウクライナ学生がいわき消防署訓練参加、地域住民と交流（2022.6） ・いわきFC観戦を通して地域住民と国際交流を深める（2022.6） ・南米等の学生が国際交流の一環として日本文化体験（2022.7） ・いわき在住ベトナム人日本語弁論大会に本学留学生が最優秀賞受賞（2022.10） ・台湾開南大学中国語研修（オンライン）に本学日本人学生が参加（2022.10） ・グローバル・ティに本学留学生が参加（広野町中学校・幼稚園）（2022.10～2023.2） ・中南米及び北米の移住者子弟と本学留学生の交流イベント（2023.2） ・姉妹校である英国カンタベリー・クライスト・チャーチ大学における語学研修「英語講座（英国）」に本学学生が参加（2023.2～3） ・協定校であるワシントン州立大学トライシティーズ校及びコロンビアベイسن短期大学における海外研修に本学学生が参加（2023.3）
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・本学ウクライナ留学生による附属昌平高校でのALTとしての活動開始（2023.5） ・市内小学校英語授業支援を本学ウクライナ留学生が参加（2023.7） ・海外研修（台湾）語学・文化研修に本学学生5名参加（2023.8） ・復興記念 常磐大物産展に本学留学生が参加（2023.11） ・第10回日中韓国際学術シンポジウムが本学にて開催（2023.11） ・太洋州学生が本学を訪問し、グローバルな交流を実施（2023.12） ・英国カンタベリー・クライスト・チャーチ大学における語学研修「英語講座（英国）」に本学学生5名が参加（2024.2） ・NPO法人相馬国際交流の会が主催するイベントに本学学生4名が参加（2024.2） ・大学の世界展開力強化事業 第1回米国ハンフォード研修に本学学生8名が参加（2024.3）

(6) 桜の聖母短期大学

① 姉妹校提携

米国	1992年11月	セイクレッド・ハート大学（コネチカット州）と姉妹校締結
米国	1994年7月	コンコーディア大学（オレゴン州）と姉妹校締結
米国	1998年10月	セントルイス大学（ミズリー州）と姉妹校締結
カナダ	2017年6月	マリアノポリス大学（ケベック州モントリオール）と姉妹校提携

② 米国ホームステイの実績（期間：29日間のホームステイ）

ホームステイの体験を通して異文化の理解を図り、学生の国際的視野を涵養することを目的とした研修。

実施年月	研修地	参加人数
1979年12月	ロサンゼルス、サンディエゴ、サンフランシスコ	学生34名、教員2名
1980年7月	ロサンゼルス、ハワイ、サンフランシスコ	学生40名、教員2名
1981年7月	バンクーバー、ホノルル、サンフランシスコ	学生49名、教員2名
1982年7月	サンフランシスコ、ロサンゼルス、ホノルル	学生25名、教員2名
1984年7月	サンフランシスコ、ロサンゼルス、ホノルル	学生73名、教員4名
1986年7月	シアトル、カルガリー、バンフ、ジャスパー	学生92名、教員6名
1989年8月	シアトル、バンクーバー、ビクトリア、バンフ	学生77名、教員5名

1990年8月	ポートランド、ニューヨーク、アトランタ	学生 58 名、教員 3 名
1991年8月	ポートランド、ニューヨーク、アトランタ	学生 76 名、教員 3 名
1992年8月	ミドルタウン、ニューヨーク、オーランド、ニューオリンズ	学生 50 名、教員 3 名
1993年7月	ミドルタウン、ニューヨーク、オーランド、ニューオリンズ	学生 44 名、教員 2 名

③ ヨーロッパ研修（期間：11 日間の研修旅行）

本学の創立者である聖マルグリット・ブールジョアの生誕の地を訪ね、本学の精神のルーツに触れ、ヨーロッパの生活文化を探ることを目的とした研修。

実施年月	研修地	参加人数
1983年7月	オランダ、スイス、パリ、イギリス	学生 12 名、教員 1 名
1985年7月	西ドイツ、イギリス、フランス	学生 40 名、教員 2 名
1987年7月	イギリス、フランス、ドイツ	学生 44 名、教員 2 名
1989年8月	イギリス、フランス、ドイツ	学生 41 名、教員 2 名
1991年8月	イギリス、フランス、ドイツ	学生 36 名、教員 2 名

④ インド研修（期間：約 21 日間の研修マザー・テレサの施設でのボランティア活動含む）

キリスト教見地から見た「国際化」は単なる先進国追随ではなく、真の新しい地平を見ようとするなら発展途上国の兄弟達に触れ、奉仕の精神を持たせることが必要だという見地から、インドのマザー・テレサの施設で奉仕活動を行う。引率教員 1 名～2 名

実施年月	研修地	参加人数
1982年3月	ボンベイ、ホナヴァ、デリー、ウタクモンド、ゴア	学生 1 名
1983年3月	ボンベイ、ホナヴァ、デリー、コーチン、マンガロール、ゴア	学生 4 名
1984年3月	ボンベイ、ホナヴァ、コーチン、ウタクモンド、マンガロール	学生 2 名
1985年3月	カルカッタ、ボンベイ、ゴア、デリー、ジャイプル	学生 7 名
1987年3月	カルカッタ、ボンベイ、ゴア、デリー、ジャイプル	学生 5 名
1988年3月	ボンベイ、ホナヴァ、ゴア、デリー、アグラ、ジャイプル	学生 5 名
1989年3月	ボンベイ、ホナヴァ、ゴア、デリー、アグラ、ジャイプル	学生 6 名
1990年3月	カルカッタ、アグラ、デリー、ボンベイ、ホナヴァ、ゴア	学生 6 名
1992年2月	カルカッタ、デリー、ボンベイ、アグラ	学生 21 名

⑤ 国際ボランティア（米国：オレゴン州ポートランド市 コンコーディア大学）

福祉の先進国であるアメリカの福祉の実情に触れることで、本学で学んだ福祉の内容を更に発展させ、応用・実践することを目的とした研修。

実施年月日	参加人数
1994年7月15日～8月6日	学生 45 名、教員 2 名
1995年7月28日～8月19日	学生 40 名、教員 1 名
1996年7月12日～8月3日	学生 41 名、教員 1 名

⑥ 英語学科 2 か月・3 か月留学（米国・カナダ）

本学教員が複数名で引率し、留学先大学にて正課授業を行う。学生はホームステイ先から現地大学に通学する。英語を母国語とする国で英語及びその国の文化を学ぶプログラムである。現地で取得した単位はそのまま認める。

実施年月	研修地	参加人数
1994年5月～7月	カリフォルニア州ピッツァ・カレッジ	学生 88 名、教員 2 名
1995年5月～7月	コネチカット州 セークレッドハート大学	学生 80 名、教員 2 名
1996年5月～7月	コネチカット州 セークレッドハート大学	学生 84 名、教員 2 名

1997年5月～7月	コネチカット州 セークレッドハート大学	学生 80 名、教員 2 名
1998年5月～7月	ミズーリ州 セントルイス大学	学生 80 名、教員 2 名
1999年5月～7月	ミズーリ州 セントルイス大学	学生 80 名、教員 2 名
2000年5月～7月	ミズーリ州 セントルイス大学	学生 76 名、教員 2 名
2001年5月～7月	ミズーリ州 セントルイス大学	学生 69 名、教員 2 名
2002年5月～7月	カナダ アルバータ州 セント メーリーズ大学	学生 56 名、教員 2 名
2003年5月～7月	カナダ アルバータ州 セント メーリーズ大学	学生 47 名、教員 2 名
2004年5月～7月	カナダ アルバータ州 セント メーリーズ大学	学生 70 名、教員 2 名
2005年5月～7月	カナダ アルバータ州 セント メーリーズ大学	学生 59 名、教員 2 名
2006年5月～7月	カナダ ノーザンブリティッシュ コロンビア大学	学生 47 名、教員 2 名
2007年5月～7月	カナダ ノーザンブリティッシュ コロンビア大学	学生 46 名、教員 2 名
2008年5月～7月	アメリカ ユタ州 ユタ州立大学	学生 43 名、教員 2 名
2009年5月～7月	アメリカ ユタ州 ユタ州立大学 (希望したが、新型インフルエンザの影響により中止)	
2010年5月～7月	アメリカ ユタ州 ユタ州立大学	学生 26 名、教員 2 名
2011年7月～9月	アメリカ ユタ州 ユタ州立大学 (希望したが、東日本大震災による学事暦変更により中止)	

⑦ 桜の聖母短期大学 短期留学プログラム

旅行社主催のプログラムを本学の 1 か月語学学習プログラムとして実施。ホームステイ及び語学研修を行う。

実施年月日	研修地	参加人数
2012年2月6日～3月18日	カリフォルニア州サンディエゴ カプランインターナショナル	学生 14 名
2013年2月10日～3月3日	カリフォルニア州サンフランシスコ ILSC-SAN FRANCISCO	学生 12 名

⑧ 桜の聖母短期大学 海外研修プログラム 英語研修・国際ボランティア

桜の聖母短期大学のルーツであるカナダ（モントリオール・キングストン・トロント）を訪れ、建学の精神の理解・英語研修の実施・国際ボランティアプロジェクトへの参加・歴史のある地区やカナダの自然を感じる場所への観光等を通し、国際的視野を広げることを目的として 2013 年から開始したプログラムである。2017 年 6 月には、英語研修先として訪問していた、モントリオールにあるマリアノポリス大学 (Marianopolis College) と姉妹校提携をした。

プログラムの内容は、モントリオールにある本部修道院を訪問し、創設者の足跡を辿り、建学の精神の理解を深め、マリアノポリス大学（姉妹校）にて現地の教員による語学研修と現地の大学生との交流を通してカナダの文化や歴史、習慣を学ぶと共に英語力を身につけた上で、国際的ボランティアをキングストン・トロントで行う。

実施年月日	研修地	参加人数
2013年9月2日～9月16日	カナダ：モントリオール、トロント、キングストン	学生 19 名、教員 2 名
2014年9月1日～9月15日	カナダ：モントリオール、トロント、キングストン	学生 9 名、教員 2 名
2015年9月4日～9月17日	カナダ：モントリオール、トロント、キングストン	学生 16 名、教員 2 名
2016年9月3日～9月16日	カナダ：モントリオール、トロント、キングストン	学生 11 名、教員 2 名
2017年9月2日～9月15日	カナダ：モントリオール、トロント、キングストン	学生 7 名、教員 2 名
2018年9月1日～9月13日	カナダ：モントリオール、トロント、キングストン	学生 13 名、教員 2 名
2019年8月31日～9月13日	カナダ：モントリオール、トロント、キングストン	学生 10 名、教員 2 名

2020 年は 9 月 7 日～9 月 20 日で研修を予定したが、コロナ禍で中止となった。

2021 年・2022 年・2023 年もコロナ禍のため研修は中止とした。

⑨ 外国人教員（令和 5 年 12 月現在）

専任教員 19 名のうち外国人教員 1 名

外国人教員の出身国はモンゴル（1 名）

(7) 郡山女子大学

① 姉妹校提携

米国 1995年 ハワイ州立大学大コミュニティカレッジと姉妹校締結。

② 姉妹校との交流

1996年～2005年 附属高校英語科の学生を中心に、夏休みを利用したハワイ大学での短期語学研修を実施。

2012年 附属高校生徒のハワイ大学語学研修復活。

2013年 元ハワイ大学副学長兼ハワイ大学コミュニティカレッジ総長 津野田・ジョイス・幸子氏による講演会実施。

2014年8月31日 大学・短大の学生を対象にした「グローバル・レディ育成研修ツアー
～9月7日 inハワイ2014」を実施。 学生7名教員1名

2016年8月30日 大学・短大の学生を対象にした「グローバル・レディ育成研修ツアー
～9月6日 inハワイ2016」を実施。 学生13名教員1名

2017年8月28日 大学・短大の学生を対象にした「グローバル・レディ育成研修ツアー
～9月4日 inハワイ2017」を実施。 学生43名教員1名

2018年8月24日 大学・短大の学生を対象にした「グローバル・レディ育成研修ツアー
～8月31日 inハワイ2018」を実施。 学生24名教員1名

2019年 附属高校生徒の修学旅行先がハワイに。

③ 国際交流語学講座

県内の社会人を対象とした語学講座を2012年10月より実施。

令和元年度 講師は全てネイティブ・スピーカー

【前期】

英語（初級） 受講者 17名

英語（中級） 受講者 6名

中国語 受講者 7名

【後期】

英語（初級） 受講者 16名

英語（中級） 受講者 7名

中国語 受講者 6名

*令和2年度・3年度はコロナ禍のため休講

④ 外国人教員

専任教員84名のうち外国人教員2名

外国人教員の出身国は、アメリカ（2名）

(8) 医療創生大学

① 留学生（令和5年12月末日現在）

人数：5名

国籍：韓国(5)

② 国際交流事業

学術教育に関する連携協定締結校

連携協定締結日	締結先	国名
2019年8月23日	シンガポール工科大学	シンガポール
2019年8月30日	マーサ大学	マレーシア
2021年2月11日	タシケント薬科大学	ウズベキスタン

2022年9月20日	アイシャ大学	インドネシア
2023年3月7日	トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学	マレーシア
2023年5月10日	マラ工科大学	マレーシア

③ 外国人教員

〈教員〉専任教員 111 名のうち、外国人教員は 4 名

外国人教員の出身国は、韓国(2)、アメリカ(1)、シンガポール(1)

(9) 奥羽大学

国際交流協定

国名	韓国
締結先(大学名等)	慶熙大学
締結時期	1975年(昭和50年)10月
締結内容	学術交流を中心とした国際交流を行っている。大学間の友好、研究の情報交換、学生・教職員の交流を目的としている。

(10) 福島学院大学

① 国際交流協定(覚書の締結)

国名	韓国
締結先(大学名等)	仁荷大学国際研究センター
締結時期	2023年(令和5年)12月6日
締結内容	相互交流、共同研究に関する覚書。
国名	イギリス
締結先(大学名等)	ペトロック大学
締結時期	2024年(令和6年)3月21日
締結内容	交流促進に関する覚書。 相互理解、学術的、文化的、人的な交流を促進する目的で友好・協力関係を確立すべく協議を開始することに合意する。

② 外国人教員

〈教員〉専任教員 63 名のうち外国人教員は 1 名 (1.5%)

外国人教員の出身国は、ポーランド(1)

(11) 福島工業高等専門学校

① 国際交流協定

国名	フランス
締結先(大学名等)	リール第一大学附属リールA技術短期大学 トゥール大学附属プロワ技術短期大学 ヴァラシエンヌ大学附属ヴァラシエンヌ技術短期大学 リトラル大学附属リトラルコートドパル技術短期大学
締結時期	2010年(平成22年)5月10日
締結内容	東北地区等の高専によるコンソーシアムと、フランス技術短期大学によるコンソーシアムによる包括協定。 教職員及び学生の交流並びに専門技術、知識及び情報の共有を行う。
国名	フランス
締結先(大学名等)	アルトワ大学附属ベテューヌ技術短期大学 アルトワ大学附属ランス技術短期大学
締結時期	2012年(平成24年)6月15日

締結内容	東北地区等の高専によるコンソーシアムと、フランス技術短期大学によるコンソーシアムによる包括協定。 教職員及び学生の交流並びに専門技術、知識及び情報の共有を行う。
国名	フィンランド
締結先(大学名等)	ヘルシンキメトロポリア応用科学大学、トゥルク応用科学大学
締結時期	2012年(平成24年)2月3日
締結内容	東北地区等の高専によるコンソーシアムと、フィンランドの大学によるコンソーシアムによる包括協定。 学生及び教職員の交流並びに専門技術、知識及び情報の共有を行う。
国名	ブラジル
締結先(大学名等)	サンパウロ大学サンカルロス校工学部
締結時期	2013年(平成25年)4月2日
締結内容	学生及び教職員の交流並びに専門技術、知識及び情報の共有を行う。
国名	オーストラリア
締結先(大学名等)	ジェイムズクック大学
締結時期	2014年(平成26年)10月17日
締結内容	学生及び教職員の交流並びに専門技術、知識及び情報の共有を行う。
国名	メキシコ
締結先(大学名等)	グアナファト大学
締結時期	2015年(平成27年)8月12日
締結内容	学生及び教職員の交流並びに専門技術、知識及び情報の共有を行う。
国名	カナダ
締結先(大学名等)	バンクーバーアイランド大学附属高校
締結時期	2017年(平成29年)3月6日
締結内容	学生の学術・文化交流を行う。
国名	中国
締結先(大学名等)	大連東軟信息学院
締結時期	2017年(平成29年)3月31日
締結内容	学生及び教職員の交流並びに専門技術、知識及び情報の共有を行う。
国名	中国
締結先(大学名等)	陝西工業職業技術学院
締結時期	2017年(平成29年)9月14日
締結内容	学生及び教職員の交流並びに専門技術、知識及び情報の共有を行う。
国名	ポルトガル
締結先(大学名等)	ポルト工科大学ポリテクニック
締結時期	2017年(平成29年)11月23日
締結内容	学生及び教職員の交流並びに専門技術、知識及び情報の共有を行う。
国名	タイ
締結先(大学名等)	チェンマイ大学
締結時期	2018年(平成30年)11月22日
締結内容	学生及び教職員の交流並びに専門技術、知識及び情報の共有を行う。
国名	フランス
締結先(大学名等)	ルーアール大学附属ルーアール技術短期大学

締結時期	2016年9月5日
締結内容	教職員及び学生の交流並びに専門技術、知識及び情報の共有を行う。
国名	アメリカ
締結先(大学名等)	シリコンバレー・ジャパン・カレッジ
締結時期	2022年(令和4年)7月7日
締結内容	学生及び教職員の交流並びに専門技術、知識及び情報の共有を行う。

- ② 海外協定校への学生派遣状況(令和5年1月～令和5年12月)
人数:27名
- ③ 短期留学生受入状況(令和5年1月～令和5年12月)
人数:5名
- ④ 長期留学生在籍状況(令和5年12月末日現在)
人数:7名
(マレーシア3名、モンゴル1名、ラオス1名、カンボジア2名)
- ⑤ 外国人教員(令和5年12月末日現在)
専任教員72名のうち外国人教員は4名(5.5%)
外国人教員の出身国は、中国(1)・韓国(1)・カナダ(1)・台湾(1)
※常勤の教員及び短時間再雇用教員・特命教員の教員を含む教員数は82名